

4 主要な教育研究設備

4.1 主要教育研究設備

岡山天文台

3.8 m 光赤外新技術望遠鏡 (せいめい望遠鏡)

飛騨天文台

60 cm 反射望遠鏡、65 cm 屈折望遠鏡、60 cm ドームレス太陽望遠鏡 (DST)、
太陽磁場活動望遠鏡 (SMART)

花山天文台

45 cm 屈折望遠鏡、70 cm シーロスタット太陽分光望遠鏡、
花山天体画像解析システム、18 cm 屈折太陽 H α 望遠鏡 (ザートリウス望遠鏡)

4.2 せいめい望遠鏡の完成

附属天文台と宇宙物理学教室が、岡山県南西部の浅口市と矢掛町にまたがる竹林寺山系に開発・建設を進めてきた岡山天文台の口径3.8 m 光赤外新技術望遠鏡が完成した (表紙)。また、2017年10月から12月にかけて募集した望遠鏡の愛称が、3月に「せいめい」に決定した。

せいめい望遠鏡の3つの特徴を以下に挙げる。

一つ目は「分割鏡」。天体の光を集める主鏡に日本初となる分割鏡を採用した。分割鏡は小さな鏡を何枚も組み合わせて1枚の大きな鏡として機能させる技術で、一般的には六角形の鏡を使うが、せいめい望遠鏡では光学性能が高い扇型の分割鏡を世界で初めて採用した。

